

江戸まちたいとう 演劇公募 芸楽祭 公演参加 団体決定!!

演劇公募公演開催期間: 2020年1月20日～2月9日

※上記開催期間は、現段階の演劇公募公演全体の仮日程です。各会場ごとに日程は異なります。公演期間・チケットの販売方法等詳細については、決まり次第、第2回江戸まちたいとう芸楽祭公式ホームページ<http://www.taitogeirakusai.com/>にてお知らせいたします。

参加団体紹介及び公演会場

【団体名】お茶の間 ゴブリン

【開催会場】上野ストアハウス

桐朋学園大学演劇科の同期である升望・岡村佳代子・小川大二郎により2013年結成。声優・ミュージカル・コメディと異なるジャンルで活躍している3人が、大学卒業以来10年以上経ってから再会結成という奇跡のユニット。各々のジャンルの特性を活かし【悪戯】をコンセプトに独自の世界観を展開している。特に“大人のファンタジーコメディ”には定評があり、着実に観客動員数を伸ばしている新進気鋭の劇団である。

<http://ocha-gob.jimdo.com/>



【団体名】パフォーマンスユニットTWT

【開催会場】木馬亭

2014年8月下北沢の小劇場B1で旗揚げ公演を行い、以降年1回のペースで上演を続けている、玉川大学芸術学部の卒業生が多く関わっているユニット。

作品は現代を舞台に誰にでも起こりうる小さな出来事・葛藤を、若干のSF要素を絡めながらコメディタッチで描くストレートプレイで、ほぼ全ての公演で主宰の木村孔三が脚本、劇団S.W.A.T! 座長の四大海が演出を担当している。

今回は2018年のしたまち演劇祭in台東で、唐十郎『ジャガーの眼』を上演して以来2度目の、既存戯曲の上演となる。

<https://tw.twt.stage.corich.jp/>



【団体名】遊戯空間
【開催会場】浅草見番

俳優・演出家の篠本賢一が主宰する演劇ユニット。1988年旗揚げ。最近は、日本の古典芸能の現代劇化や和合亮一の現代詩の演劇化など「文学性の高い言語を軸にした劇的空間創造」を目指している。『全段通し仮名手本忠臣蔵』は2012年の初演以来、浅草木馬亭、シアターXなどで上演し好評を博してきた。

主な作品『詩×劇 つぶやきと叫び』『詩×劇 たったいま八月の冥王星でたったいま八月の地球では』『鏡花×劇 草迷宮』『怪談牡丹燈籠』など。

<http://www.yugikukan.com>



【団体名】東京アフロ
【開催会場】浅草九劇



演劇を中心に約30年間創作活動を続けてきた作演出のKS LABOと、無垢な魂を持った俳優・砂月夏輝と綱田琢の3人が2018年2月に結成。今年7月までで全9作品110ステージ以上の公演を行っている。

コンセプトは「本気の俳優が本気の作品を創る」。日本人の忘れてはならない家族愛、故郷への思い、人間の優しさなどを作品に込めている。

また世界初の人力車送迎つきチケットを発売するなど浅草ならではのユニークな企画を打ち立て東京新聞に取り上げられるなど、下町で生まれ下町で育った純度100%な江戸っ子集団。そして、注目を集めている新進気鋭のエンターテインメント集団。

<https://www.tokyo-afro.com>

